



(公財) 山階鳥類研究所
〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
電話：04-7182-1101 FAX：04-7182-1106
<http://www.yamashina.or.jp>



ヤンバルクイナの親がヘビから卵やヒナを守る行動が 初めて記録されました

沖縄本島北部やんばる地域で進められているヤンバルクイナ保護増殖事業※1の一環で、山階鳥類研究所やNPO どうぶつたちの病院沖縄が連携して実施している調査の結果、

- ・環境省の施設で飼育下繁殖した個体（雄・若鳥）を2020年9月にやんばるの自然に放鳥し、その後の行動を追跡したところ、2021年4月から、野生個体とつがいとなって繁殖を開始しました。
- ・5卵抱卵し、孵化の最中にヘビ（アカマタ、1.5m大）が巣に侵入しました。その際、ヘビの上に親鳥が脚を乗せている場面が自動カメラで撮影されました（写真1）。
- ・その後、3羽のヒナが巣の外で確認された（写真2）ことから、少なくともこの3羽はヘビの捕食から逃れたものと推定され、ヤンバルクイナの親が捕食を回避するために何等かの行動をとったものと思われる。
- ・ヤンバルクイナの巣がヘビに襲われた場面と、その際の親の行動が写真で確認されたことは初めてです。
- ・今年は上記の個体を含め、飼育下繁殖して放鳥した4個体が野外で繁殖を始め、野生復帰の結果が期待されます。

※1 ヤンバルクイナ保護増殖事業は2004年に環境省等で策定したもので、本種の生息に必要な環境の維持や改善、飼育下繁殖や再導入のための技術確立等を目指している。

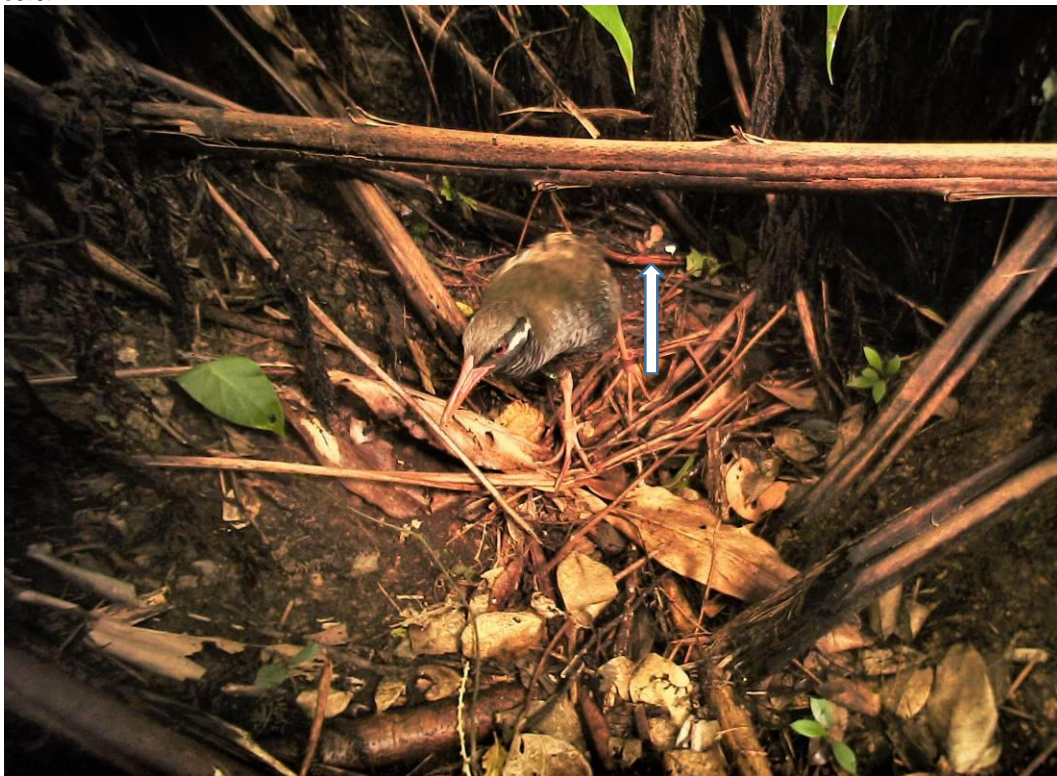


1. 巣に入ったアカマタの上に脚を乗せているヤンバルクイナの雄（→，飼育下で繁殖して放鳥した個体）2021年5月8日3:36分 自動カメラで撮影

下赤枠内：拡大



2. 巣から逃げ出したヤンバルクイナの孵化直後のヒナ3羽（画面の左の→、この時点でアカマタは巣の上に留まっている；画面右の→）2021年5月8日3:45分 自動カメラで撮影



3.（参考）雌と抱卵を交代して巣から出ていく雄親（30センチほど後方に卵が見える；白い矢印）2021年5月7日12:11分 自動カメラで撮影

この件についての問い合わせ先

※ 写真のデジタルデータをご希望の方もお問合せ下さい。

尾崎清明 山階鳥類研究所副所長

eメール : ozaki@yamashina.or.jp

平岡考 山階鳥類研究所広報コミュニケーションディレクター

eメール : hiraoka@yamashina.or.jp

電話 : 04-7182-1101, Fax:04-7182-1106

<参考>

ヤンバルクイナ（ツル目クイナ科、*Gallirallus okinawae*）

国指定天然記念物

国内希少野生動植物種（種の保存法）

絶滅危惧 IA 類（環境省レッドリスト 2020）

危機 EN（IUCN Red List）

- ・1981年に新種として発見されたほぼ無飛力のクイナ類。全長は約35cm。雌雄同色。
- ・沖縄島の北部（国頭村、大宜味村、東村）の通称やんばる地域にのみ留鳥として分布し、常緑広葉樹林の林床や周辺の草原に生息する。
- ・繁殖期は4～7月で地上に営巣する。一腹卵数（一回の繁殖で産む卵の数）は3～5卵。
- ・昆虫、甲殻類、両生類などの小動物を主食とする。
- ・外来種ファイリマングースならびに、野生化したネコやイヌによる捕食が本種のもっとも大きな脅威であり、さらに、森林伐採など的人為的な生息地の減少、道路やダム建設による生息地の分断、交通事故死、側溝へのヒナの転落などの減少要因がある。
- ・本種の保護のためファイリマングース、ノネコの排除事業、本種の保護増殖事業が行われている。また、野生化したネコの増加を防ぐため地元地方自治体によるネコの適正飼養に関する条例の制定や、獣医師を中心とした飼い猫へ不妊去勢手術やのマイクロチップ埋め込みの推進が行われている。

アカマタ（有鱗目ヘビ亜目ナミヘビ科、*Lycodon semicarinatus*）

- ・全長0.8～1.7m。
- ・南西諸島の喜界島、奄美大島、徳之島、沖永良部島、与論島、沖縄島、久米島、渡嘉敷島などに分布し、平地から山地にかけて生息。夜行性。
- ・南西諸島産のヘビとしては大型で、ヘビ、トカゲ、カエル、鳥などを捕食する。